

第2回

京都市における

**道路**構造の

技術的基準

検討委員会

1. 前回の委員会での意見
2. 条例制定における  
**独自**ルール(事務局素案)
3. パブリックコメント  
実施(案)
4. 今後のスケジュール

# 意見

車道，自転車道，歩道は  
分離できるところから実施



## 独自ルール案①

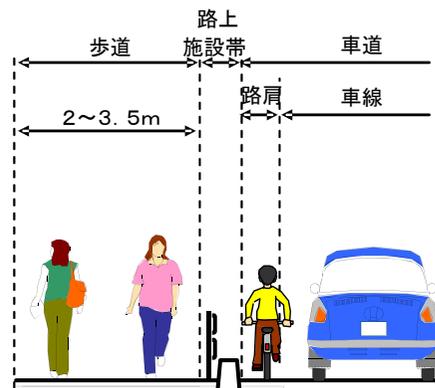
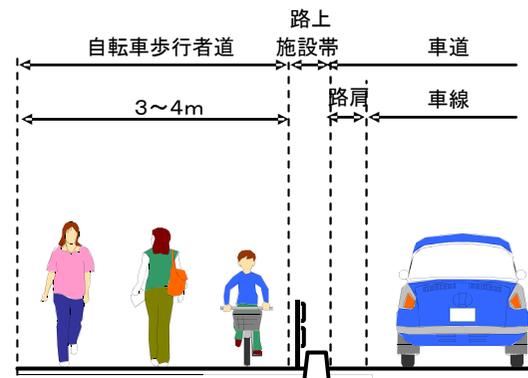
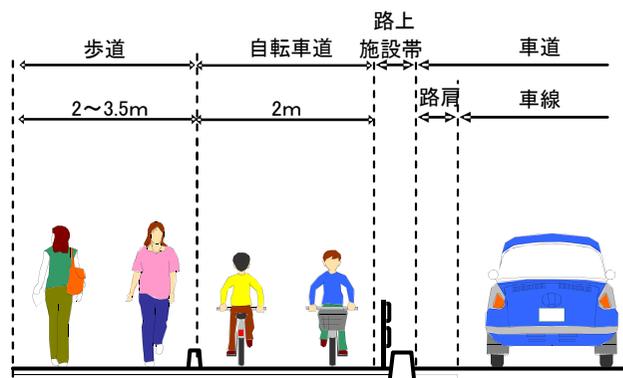
「交通量が多い場合」の  
数値基準を定める。

# 「交通量が多い場合」の数値基準

【自動車】⇒概ね4,000台/日以上

【自転車】⇒概ね1,000台/日以上

【歩行者】⇒概ね1,000人/日以上



# 意見

車道の左側通行

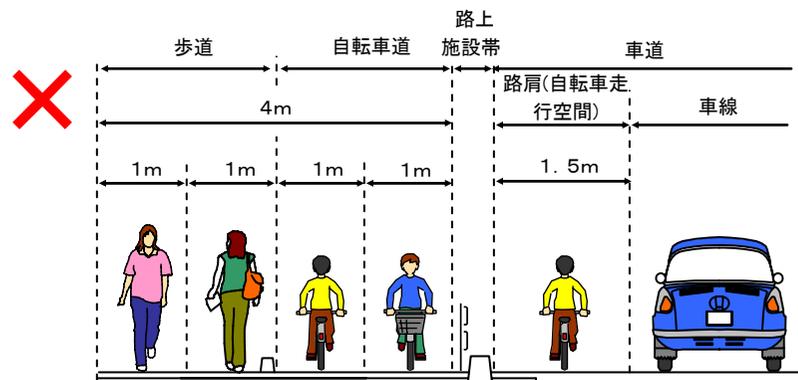
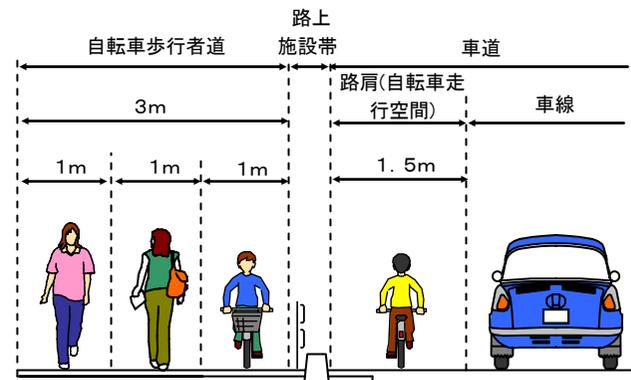
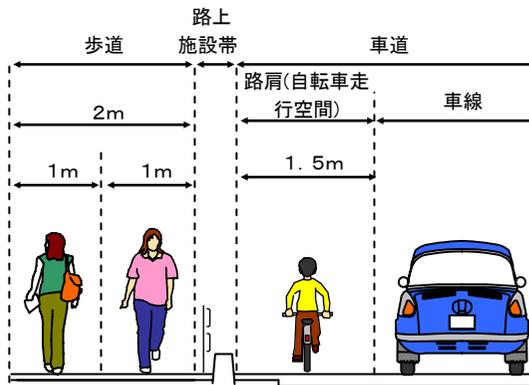
高速自転車と低速自転車  
の2タイプが混在している



独自ルール案②

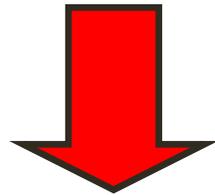
路肩幅員1.5m

歩道が設けられた第3種及び第4種の道路のうち、安全かつ円滑な交通を確保するため、特に必要がある場合は、路肩を自転車通行空間に充てるものとする。路肩を自転車通行空間として活用する場合の標準幅員は**1.5m**とする。ただし、やむを得ない場合は**1.0m**まで縮小することができる。



# 意見

2. 0m以上の歩道が少ない



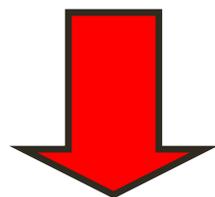
## 独自ルール案③

歩道幅員は、**2.0m**以上。なお、防護柵等設置時は**1.75m**以上の有効幅員を確保



# 意見

山間部未改良区間の整備  
手法

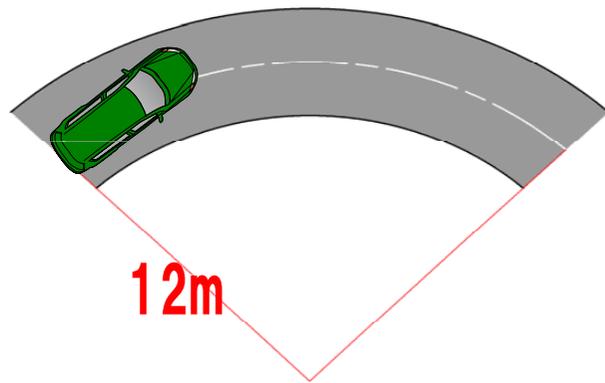


## 独自ルール案④

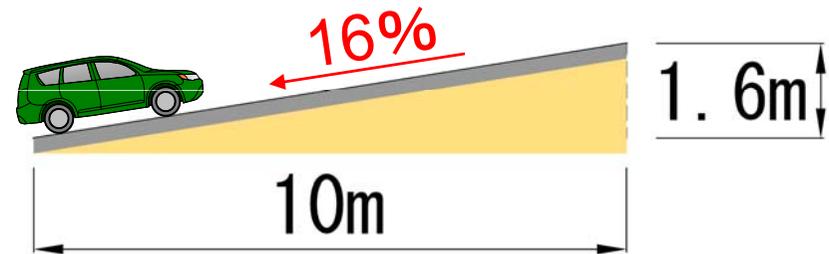
山間部の小区間特例（局部改良の最低値）を規定。

# 局部改良の最低値

最小曲線半径  
12m



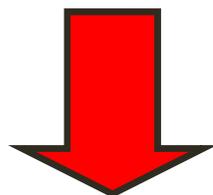
最急縦断勾配  
16%



※制限長100m

# 独自ルール案⑤

利用状況や交通状況が**一般の道路と異なる**道路の車線数



**小区間**に限り条例の規定より減ずることができる  
(十分な技術的根拠を整理)

- 時間あたり自動車交通量の変動幅が少ない
- 沿道の状況が大きく変化する可能性が低い
- 歩行者利用数が多い
- 利用交通の制御が可能



# 独自ルール案⑥

従来の「植樹帯」に加え  
「植樹柵」を定義付け

→ 道路植栽の  
方法を明確化



# パブリックコメント実施(案)

- ・ 条例の趣旨，概要，意見を求めようとする内容を**冊子**に取りまとめ，市役所，区役所，支所，土木事務所の**窓口**に配置。
- ・ 京都市情報館（京都市**ホームページ**）にも同じ内容のものを掲載。
- ・ 募集期間前か開始直後に**市民新聞**で，パブリックコメントの実施を広報。
- ・ 意見は，**郵便，FAX，電子メール，持参**の方法によって受け付け。  
（郵送の場合は，最終日の消印有効とする。）
- ・ 電話での意見は受け付けない。
- ・ 意見とともに，年齢，性別，住まいの行政区，日常の主な移動手段，職業の回答を求める。

# 今後のスケジュール

本日	第2回検討委員会
10月	第3回検討委員会
10月～11月	パブリックコメント実施
11月	第4回検討委員会
12月	条例案作成
平成25年2月	市会上程
4月	条例施行